

## 厳しい環境における 農業への貢献について

ジェイカムアグリ株式会社

取締役 白 波 和 郎



新年明けましておめでとうございます。

平成23年の年頭にあたり、本誌「農業と科学」をご愛読頂いております皆様のご多幸とご繁栄をお祈り申し上げます。

一昨年10月にチッソ旭肥料(株)と三菱化学アグリ(株)が合併し新会社ジェイカムアグリ(株)が誕生し、ようやく1年を経過しました。

肥料事業を取り巻く環境は、農業分野における作付面積の減少や施肥の減少などにより、国内肥料需要量の減少傾向が今後も継続する可能性があります。

さらに、肥料原料の大半を輸入に頼っている日本にとっては、肥料原料の安定調達に不安があり、原料価格変動も継続する可能性があります。

このような環境の中、国内農業の発展に貢献するため、弊社は事業基盤を強化し、安定供給力を増すとともに、農家のニーズ対応できる商品開発を加速して行く必要があります。

弊社は農家需要に対応するため水稻、畑作の両場面でご使用いただける商品として、各種の化成肥料を始め、緩効性肥料、被覆肥料及び培土などの多種多様な商品を揃えており、特に、他社に先

駆けて開発した被覆肥料は施肥省力化、収量・品質の安定化及び肥料利用率向上による環境負荷低減などのニーズに対応した商品として弊社の主力製品として重要な位置付けにあります。

農業を取巻く環境が年々厳しくなっており、「農家のニーズにスピーディーに対応する会社」として、弊社は製造、販売、研究の部門を効果的に融合させ、抜本的な合理化、効率化を行なうとともに、ニーズに対応した良い商品の開発、より良い施肥技術の開発と普及拡大に向けて日々努力を続けております。

国際経済、国内政治・経済の先行き不透明、世界規模での資源争奪戦問題や農業分野における新たな問題としての環太平洋経済協定(TPP)問題等厳しい環境にありますが、弊社は「日本の農業に貢献し続けられる企業」として全社一丸となって皆様のご期待に沿うよう努力をしておりますので、ご指導、ご鞭撻をお願いします。

最後に本誌「農業と科学」も合わせて内容の充実を図るよう編集部一同努力してまいりますので、さらなるご愛読を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。